



今週半ばから、あちこちでヒカンザクラが開花し始めました。

植物や動物の状態が季節によって変化する現象を生物季節現象といい、それを観測することを「生物気象観測」といいます。その目的は、生物におよぼす気象の影響を知るとともに、観測結果から季節の遅れや進みなど、気象状況の推移を知ることにあります。



ヒカンザクラ

全国の気象台などでは植物の開花や紅葉、鳥や動物の初鳴や初見を観測しており、中でもサクラは、「桜前線」として気象庁から開花予想がされています。

ここで、「開花」とは、観測の対象としている木（標本木）で数輪以上の花が開いた状態をいいます。観測対象としているサクラの種類は、九州地方～北海道地方南部ではソメイヨシノ、沖縄・奄美地方ではヒカンザクラ、北海道地方北・東部ではエゾヤマザクラとなっています。サクラの開花した日が等しい地点を結んだ線を一般に「サクラ前線」と呼んでいるのです。

サクラは夏の間、翌年の春に咲く花のもととなる花芽（かが）を形成し、その後いったん生長を止めて休眠期に入り、秋から冬にかけての低温に一定期間さらされると休眠から目覚めます（休眠打破）。そして、気温の上昇とともに開花ホルモンが働いて開花します。



メジロ

沖縄本島で、桜前線が南下してくるのは、北部地域が早く低温期に入るからなのです。また、暖冬の場合は、休眠打破が不十分で開花が遅れることもあります。（文責：玉村かおり）